

福島西高校の「総合的な探究の時間」

1 概要

福島西高校では、毎週水曜日の「総合的な探究の時間」でSDGsをテーマにクラスを超えて、生徒が主体的に取り組んでいます。

2 SDGsとは

Sustainable Development Goals 持続可能な開発目標の略称です。2015年9月の国連総会で採択された2030年に向けた具体的行動指針であり、17の目標から成り立っています。

現在では、企業・行政・大学でもSDGsに積極的に取り組んでいます。

福島西高校でも年間を通して、週1時間の授業「総合的な探究の時間」で取り組むことにより、世界の課題を把握するとともに自主的に課題解決方法を考えることができるようになることを目指しています。

3 実施内容

(1) 外部講師による講演

昨年4月には、「高校でSDGsを学ぶ意義」をテーマに外部講師の講演会を開催しました。講師は、教育学や社会学が専門で、ふくしま学びのネットワーク事務局長を務める福島大学教育推進機構の前川直哉特任准教授です。自分が良くなるために誰かを犠牲にする社会にしてはいけないこと、誰かを幸せにするためにこれからも学んでほしいとエールをいただきました。【記事①】

その後、17の目標から自分の探究テーマを選び、クラスの枠を超えグループを編成しました。世界の課題を知るためにICTを活用しながら調査をし、それをグループ内で発表しました。

また、授業はすべてリーダーである生徒が主導し、担当教員からの指導はありません。生徒は自主的に取り組みます。活動の様子は全国紙でも取り上げられました。【記事②】



SDGsについて講演した
前川さん(右)

貧困飢餓撲滅伝える
 福島西高で講演会
 福島西高は24日、福島市の同校で福祉促進や貧困・飢餓撲滅などを掲げる「SDGs」をテーマにした講演会を開き、生徒に学ぶことの意義を伝えた。福島大の前川直哉特任准教授を講師に招き、1、2年生約480人が聴講した。前川さんは日本の貧困率が高いことを挙げながら、「自分が良くなるために誰かを犠牲にする社会にしてはいけない」と持論を展開。誰かを幸せにするために「誰かをも不幸でほしい」と呼び掛けた。

【記事①】

2019年4月27日

福島民友

【記事②】

2019年7月28日

朝日中高生新聞

朝日中高生新聞 2019年(令和元年)7月28日 SDGs 2

▶ 1面から続く

福島県立福島西高校 全学年で17の目標を探究

世界の、日本の、地域の課題見える

「クラスの枠を超えて、SDGsの17のテーマに分かれて、探究しています。編集部にメッセージを寄せてくれたのは、福島県立福島西高校の佐藤伸郎先生です。今年度から、全学年の総合学習のテーマをSDGsに決めて取り組んでいます。

「おかしい」と気付く
 10日にあった5回目の授業。1年生約240人は17のグループに分かれてそれぞれの課題を調べ、まとめたことを発表しました。

「女性が家事や育児をするのが普通」「古いきたりが不平等につながっているのは」「そもそもしきたりって何なの」
 男女平等の課題解決を目指す「5. ジェンダー平等を表現しよう」のグループは約20人。前回の授業では福島県男女共生センターから講師を招き、ジェンダーの基礎を学びました。それをもとにスマホなどで課題を調べて情報を共有し、男女の不平等に「おかしいよね」と盛り上がっていました。

橋本玲奈さんは「身近なことでも『それは女性だけがやらないといけないもの?』と気付くきっかけになりました。中川琴斗さんは「男から見ても男性議員が多すぎる。男性視点の意見ばかりが社会に反映されてしまうのでは」と心配します。

生徒主導「今」に挑む
 授業は17の目標を知り、関心のあるテーマを選ぶことからスタートしました。先生は基本的に指導しません。生徒の自主性を育てることに加えて、世界中の大人が解決できなかった課題だからです。「今」の問題を調べるため、スマホの利用も特別に認めています。世界から地域の課題に落とし込み、年度末には調べたことや対策をまとめたポスター発表をします。

SDGsという言葉も聞いたことがない生徒がほとんどでしたが、授業の評判は上々です。中川さんは「国内外で大きな問題がたくさん起きている。世界の見方が変わってきた」と話します。

企画した佐藤先生は「17の目標は文系と理系にまたがり、身近な課題にもつながる。想像力や判断力を養い、これからの大学入試にも生かせる」と期待します。2011年に東日本大震災による原発事故が起きた福島だからこそ、持続可能な開発を考える意味もあると考え、全県に広めたいといいます。

(2) ポスターセッションによる発表

二学期（9月～12月）は、他の発表を聞いて、質問をしました。さらに質問に対する回答を調査し、相手を納得させるように回答する練習を行いました。

つぎに、SDGsの課題は、世界の最貧国だけが対象ではなく、身近な地域でも同じような課題があることを知るための議論を展開しました。

身近な課題と解決方法を話し合いながらまとめのポスターの製作をしました。

三学期は、ポスターセッションへ向けて発表と質疑応答の練習を行いました。

発表当日（1月29日）は、県内各地の高校教員、大学職員、報道関係、保護者が来校し、生徒の発表のようすを聞きました。【記事③④】



【記事③】
2020年1月31日
福島民友

【記事④】
2020年2月2日
福島民報



た。班の人と協力して解決策を考えたのが楽しかったと感想を話した。

2月4日には、東京にあるNPO法人Think the Earthで理事を務める上田 壮一先生から講演をいただきました。

講演のテーマは、「SDGs とソーシャル・デザイン」であり、国内外の高校生の取り組みやSDGs for schoolの学生たちの活動について紹介していただきました。

4 成果

生徒による振り返りアンケートの分析から、年間の活動を通して、下記(1)～(8)の8つの力が身に付きました。生徒の記述と合わせてご覧ください。

(1) 世界・社会の状況の変化やその課題を理解するちから

- ・安い服が作られている場所の状況や子供が働いていることを知って、私たちが変わらなければならないと考えた。
- ・社会は少しの間で変わることを知った。社会の問題を解決するのは若い人つまり私たちの自主的な行動が必要だということを理解した。
- ・日本や世界についての不平等について、自分で調べたものだけでなく、班の仲間の情報も共有して、理解を深めることができた。
- ・差別や貧困など、世界に「格差」という問題が浮かび上がっている中で、我々は国境を越えて解決していかなければならないと感じた。



(2) 物事を論理的に考えることができるちから

- ・問題が発生するまでの過程や原因などを、理由や背景を含めて考えることができた。
- ・貧困をどのように解決していくべきか、またどうやって減らしていくかについて、筋道を立てて、班の人と話し合っって考えをまとめることができた。
- ・世界中の教育の課題についてそうなった理由も理解し、現状を見ながら解決策を見つけることができた。
- ・1つの課題に対して、1人1人の考え方は違うので、1つの考えで終わるのではなく、論理的に考えることが大事だと思った。

(3) 他人の前でも臆することなく自分の考えを発信できるちから

- ・飢餓について自分から意見を発信することができた。小さなことでも発信することの大切さを学んだ。
- ・グループワークの時、何か考えはあるかと言われ、完璧ではなかったが自分の考えを

まとめて言うことができた。

- ・今までは発表などの授業で、他人まかせで、自分で何も考えずに終わることがほとんどだったけど、今回、自分の意見を言って発表に生かすことができたので、これまでとは違い、他人まかせにならずにできた。
- ・ポスターセッションで、しっかりと今まで調べてきたことを発表することができた。また、その中で自分の意見も伝えることができた。

(4) 仲間と協力・協働するちから

- ・それぞれ調べたことを教え合うなどして、発表に使うポスターを全員で協力して完成させた。
- ・発表するためのポスターを作る時に、この内容は必要、必要ではないなど分かりやすくするために協力し合えた。それぞれが調べたことをしっかりと皆に伝えられて考えや情報を共有できたから。
- ・クラスが違う人と始まったが、やっていくうちに「ここは違うのでは」や「確かにそういう考えもある」など認めたり反対したりして活動できた。

(5) 取り組みについて、計画性を持って進めるちから

- ・このことを調べるためにはこの知識をつけなければならないと調べることについての計画性を持てた。
- ・ポスターセッションまでの計画を大体決めて、そこからは全員で協力して最終的には、計画通りに終わらせることができ、計画より余裕を持って行動できた。
- ・毎回の授業の初めに今日はどこまで進めて来週は何をするかなどしっかり計画を持って取り組めた。
- ・授業だけでは足りなかった分を、自宅で調べたり、まとめたり、書いたりし、計画的に行えた。

(6) 自分で役割をみつけ、全力で取り組み、自信を持つちから

- ・責任をもって自分の役割をこなすことができた。
- ・ポスターづくりの際、私は何をすればいいかなど周りを見て判断できていた。そしてポスターがうまくできたので、とても自信がついた。
- ・グループの自分以外のふたりは話すのが苦手なようだったので、自分も得意ではないけれどがんばってフォローした。
- ・私は文章を考えるのが苦手だったのですが、字を書くのは得意だったので、積極的にポスター制作に関わり誰でも見やすく、分かりやすい字でポスターを作ることができた。

(7) 考えの違う意見を受け入れ、思いやるあたたかさを持つことができるから

- ・自分と違う視点で考える人もいて、そういうこともあるのかと新しい意見や情報を取り入れることができた。
- ・違う意見を持つ人はどうしてそのような考えに至ったのかをよく考え、自分とは違った視点から新鮮な意見も取り入れ、尊重することができた。
- ・相手の意見を尊重しながらも、自分の意見をはさみ、なるべく合理的に話が進むように心がけた。



(8) 社会の当事者としての意識を持ち、地域や世界の未来を真剣に考えることができるから

- ・未来は「自分で作り出すもの」という言葉にあるように、一つのアイデアで変えられるので、アイデアを作り出せるようにしたい。
- ・ジェンダーとは、自分の周りが日本にも身近に課題があり、将来自分が家事をする際に大きく関わっていく事であり、1人1人が理解していく事が大切だと分かり、自分とは関係ないと思わず、将来社会の担い手として真剣に取り組む事ができた。
- ・SDGs をやる前では、世界や未来のことなど自分には全く関係のないことだと思っていましたが、そうではなく、1人1人が向き合っていかなければならないことだと意識をし、どうしていくかを考える良い機会になった。
- ・こらからの世界を造るのは我々だ。それ以外の何者でもないと思った。

5 気づきと課題

担当教員とポスターセッションに参加した教員の合計20名にアンケートを実施しました。指導して気づいた点や次年度への課題をまとめました。

(1) 教員の気づき

- ・教師が一切専門的な知識や要領等を教えないで、自分たちで答えのない課題を考え、まとめることができたのが良かった。
- ・福島西高生の底力がわかった。自分たちの力ができることがわかった。
- ・なるべく教えないで見守るというスタンスは簡単なようで難しい。
- ・身近な問題に落とし込んだ時に、発表するには重すぎるテーマもある。
- ・生徒だけでも、結構形になるものだと感じた。発表や質疑応答も中身のあるものであった。

- ・指導法など多くの点で、教員側が学ぶことができた。

(2) 来年へむけての改善点

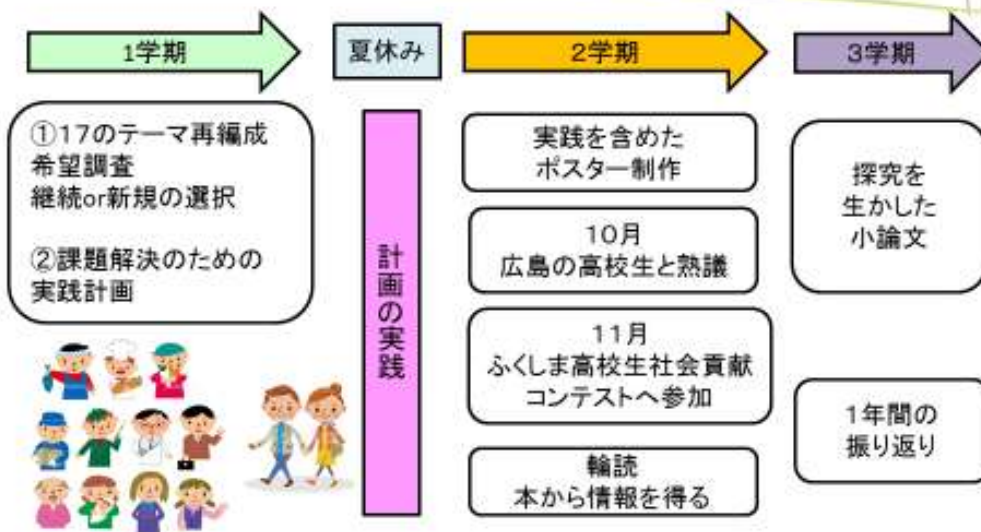
- ・本から何か情報を得ようとする様子がなく、誰も本を借りなかった。
- ・仮説から検証までのプロセスを体験させたい。
- ・この先うまくつなげていけたらと思う。
- ・データ・グラフ等は出典を併記させるべき。
- ・プレゼン力の向上

6 今後の展開

改善点を踏まえて、課題解決のために実践する機会や関連書籍に触れる時間をつくります。また、他県の高校生と意見を交流し、コンテストへの参加も実施していきます。



2020年度2年生 総合的な探究の時間 SDGs計画



2021年度3年生 総合的な探究の時間 SDGs計画(案)

